

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小牧長治物流センター1 新	階数	地上4階
建設地	愛知県小牧市長治町1番1 他	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 予定	評価の実施日	2018年6月28日
敷地面積	16,176 m ²	作成者	川端 正起
建築面積	8,307 m ²	確認日	2018年6月28日
延床面積	22,618 m ²	確認者	川端 正起



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.0

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **14.5 %**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0 %**

②資源の有効活用

3.2

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> **なし**

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> **なし**

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)小牧長治物流センター1 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版:
 CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数				
Q 建築物の環境品質																2.5	
Q1 室内環境																2.5	
1 音環境																2.5	
1.1 室内騒音レベル																	
1.2 遮音																	
1 開口部遮音性能																	
2 界壁遮音性能																	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	
1.3 吸音																	
2 温熱環境																2.3	
2.1 室温制御																	
1 室温																	
2 外皮性能																	
3 ソーン別制御性																	
2.2 湿度制御																	
2.3 空調方式																	
3 光・視環境																2.5	
3.1 昼光利用																	
1 昼光率																	
2 方位別開口																	
3 昼光利用設備																	
3.2 グレア対策																	
1 昼光制御																	
3.3 照度																	
3.4 照明制御																	
4 空気質環境																2.9	
4.1 発生源対策																	
1 化学汚染物質																	
4.2 換気																	
1 換気量																	
2 自然換気性能																	
3 取り入れ外気への配慮																	
4.3 運用管理																	
1 CO ₂ の監視																	
2 喫煙の制御																	
Q2 サービス性能																3.0	
1 機能性																	3.0
1.1 機能性・使いやすさ																	
1 広さ・収納性																	
2 高度情報通信設備対応																	
3 バリアフリー計画																	
1.2 心理性・快適性																	
1 広さ感・景観 (天井高)																	
2 リフレッシュスペース																	
3 内装計画																	
1.3 維持管理																	
1 維持管理に配慮した設計																	
2 維持管理用機能の確保																	
2 耐用性・信頼性																	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振																	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																	
2 免震・制震・制振性能																	
2.2 部品・部材の耐用年数																	
1 躯体材料の耐用年数																	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	
6 主要設備機器の更新必要間隔																	
2.4 信頼性																	
1 空調・換気設備																	
2 給排水・衛生設備																	
3 電気設備																	
4 機械・配管支持方法																	
5 通信・情報設備																	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)小牧長治物流センター1 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10
② 資源の有効活用			3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12
			外構緑化: 14.52%/建物緑化: 0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)小牧長治物流センター

計画上の配慮事項	
総合	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースと自動販売機等の設置し、昼光率を確保することにより、室内環境に配慮した計画としている。 発泡剤を用いた断熱材等を使用しないことにより環境へも配慮している。
Q1 室内環境	居室床面積の1/30以上の自然換気性能の確保 昼光率2.46%確保
Q2 サービス性能	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用 執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により、良好な景観を形成している
LR1 エネルギー	[BEI][BEIm]=0.47
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、省水型機器を用いている 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率 74% 適切な量の駐車施設、荷捌き用車両の駐車施設を確保している
その他	特になし